

卒業生からのメッセージ

小田 慧介 Keisuke ODA	NTT データカスタマサービス株式会社 NTT DATA CUSTOMER SERVICE Corporation http://www.nttdatacs.co.jp
小川 佑哉 Yuuya OGAWA	株式会社富士通エフサス Fujitsu Fsas Inc. http://jp.fujitsu.com/group/fsas/

1. 在校生の皆さんへ (小田 慧介)

在学生の皆様、初めまして、NTT データカスタマサービス株式会社の小田と申します。

今年で4年目となりました。日々、どうやったら楽に仕事を終わらせられるか、早く帰るにはどうしたらいいかと考えて、業務をこなしています。

幸か不幸か、その経験から今現在は、作業時間の短縮やシステム導入の検討を行う際は、会議に参加させて頂けるようになりました。

企業の収入を増やすのではなく、支出を減らすものですが、利益にはつながるものなので、やりがいがある良い立ち位置に居られるなど思っています。

このように、自分が楽しみたいと思って起している行動が、全体の利益になるということがあります。皆さんもこれから卒業論文があると思いますが、まだ検討中でしたら、何か楽しみたいなど思ったことをやりやすいようにする方法を考案するなどしては如何でしょうか？それらを考えるという行動自体が今後に役立ってきます。

ここから話は変わりますが、皆さん授業を受けていて、この授業を受けていて今後役に立つのだろうか？と思ったことはありませんか？

私はあります。回路設計とか今後使わないだろう…とっていました。

入社半年後に、すぐにその知識が必要となりました。ハードウェアを作成している部署に配属されてしまったのです。まさか自分がハードウェアの作成に携わるとは思っていませんでした。PCの自作等すらやったことがなかった自分が、PCの組み立てどころか、マシンの設計、サーバーの作成・設定、ネットワーク機器の作成を業務として行えと言われ、正直、どうし

たものかと思いつつ、まあ周りもそれなりにフォローしてくれるだろうと楽観視していました。しかし、まあ実際に行っていくと、「この規格に合わせてね」、「電磁波関連はそういう団体あるからそこから調べて、あと試験を行っておいて」、「ネジとか部品はローズ仕様のものね」、「試験日程スケジュールしといて」、「ON時の～入力が行われた時のクロックのタイミング調べといて」と言ったレベルでした。

オシロスコープ、回路図等を使って電流の動きなどを見るのですが、回路設計の授業が無ければ、やっていけてなかったのではないかと思います。

当時授業を受けていた自分は、正直今後使うことないだろうと思いつつ、とりあえず話を聞いていたというレベルだったのですが、まさか、ここまで自分を助けてくれるとは思ってもみませんでした。

この経験から、皆さんへ出せるアドバイスは、今のうちに4年間の振り返りを行って、わからない所や疑問に思ったところは、質問できるうちに先生方に質問しておいた方が良いということです。

卒業後になると、自分で解決しなければならなくなり、本当にその答えであっているのかということを確認するのも大きな労力を要することになります。

こういったことを今のうちに身に付けておけば、業務上の難関も突破しやすくなりますし、自分自身は大したことないと思っている事でも、他の人にはすごく難しいことに見えて、それだけで大きな評価を貰えることもあり大変お得です。この4年間の知識は、必ず力になってくれます。社会人になると正直かなり理不尽なことも多々あります。それらに負けないための力をつけて社会へ羽ばたいていってください。

著者紹介

小田 慧介 (おだ けいすけ)

平成20年3月 九州産業大学情報科学部知能情報

学科卒業 米元研究室所属

平成 22 年 3 月 九州産業大学大学院情報科学研究
科卒業 米元研究室所属

2. 在学中の皆さんへ

(小川 佑哉)

卒業からはや3年の月日が経ちました。株式会社富士通エフサス小川佑哉と申します。

私は現在 CE という職種で働いています。CE といきなり言われてもほとんどの方はご存じないかと思えます。簡単に説明しますと、IT 機器の修理や設置などを主に実施する技術者のことで、お客様の業務が安定して継続できるよう、主にハード面からサポートしています。

さて、「先輩からのメッセージ」ということで、自身の学生生活の振り返り、それに代えさせていただきます。

私の学生生活は実に恵まれたものでした。中でも、切磋琢磨できる同期たちを学生生活が始まって早々に見つけられた点は、最大の幸運であったと感じています。競い合えるライバルや目標となる人物がいるということはとても大切なことです。彼らとの出会いがあってこそ、多くのチャンスを得ることができたと思っています。その中でも、プロジェクトベース設計演習と海外ジョブトレーニングについては特に印象深かったのでここで述べさせていただきます。

プロジェクトベース設計演習については、リーダーの一人として演習に参加しました。うまくいかないことだらけで、チームのメンバーや講師として参加して下さった方々にはひどく迷惑をかけてしまいました。しかし、その分演習が完了した時の喜びは大きなものでした。また、4年時には上司役として再びこの演習に参加することもできました。後輩たちが行き詰った時にどういう風に伝えれば、解決の糸口が見つかるのか、自身の演習を振り返りながら考えることは、非常に良い経験となりました。

海外ジョブトレーニングは、その名前の通り、海外、オーストラリアへ行き、実に1か月半の間ホームステイをしながら英語や文化を学ぶというものです。これに参加するためには試験をパスしなければなりま

せん。高校時代、英語で赤点を取ってしまったこともある私が、この研修に参加できたのは、先に述べた同期たちとの切磋琢磨があってこそだと思っています。特に、語学教育センター主催の語学教室は放課後ではありますが、とても勉強になるので是非お勧めしたいです。

肝心のジョブトレーニングの中身についてですが、前半の4週間は現地の大学で外国の留学生たちと語学教育を受け、後半の2週間は現地の企業で職場体験を行いました。海外での生活は大変刺激的で、多くの体験をすることができました。

しかし、学業面は充実していたものの、そこに偏りすぎていたとも感じています。私は学生時代、アルバイトやサークル活動を行っていませんでした。これに関しては、勉強が忙しいしお金も節約すればいいしと、自分で理由をつけてやりませんでした。今から振り返るとひどく惜しいことをしたと感じています。なぜ、そう感じているかという、以下の2点が主な理由です。1点目は、単純なことで、せっかくの学生時代に思い出を作る機会を自ら少なくしてしまったことです。2点目は、社会に出た時に上司や同僚とどう付き合っていくのか、本当に不慣れな状態から始めなければならなかったことです。一概には言えませんが、アルバイトやサークル活動を積極的に行ってきた同期は配属されてからも割とうまく部署になじめていたように見えました。しかし、私のように学生時代アルバイトやサークル活動を全くせずにいた同期は、上司や先輩とどういふ距離間で付き合っていけばよいかかわからず、配属された当初かなり苦勞していたように見受けられました。

だからと言って、アルバイトやサークル活動ばかりに偏り、学業をおろそかにしていた同期たちは、就職活動でひどく苦勞していました。何事もバランスが大切だと思います。幸い、大学時代はもともと時間に余裕のある時期です。何かに偏らず、なんにでも挑戦し、実り多い学生生活を過ごしてほしいと願っております。

著 者 紹 介

小川 佑哉 (おがわ ゆうや)

平成 23 年 3 月 九州産業大学情報科学部社会情報システム学科卒業 古井研究室所属